グループホーム五島
（別紙4）　　2025　年

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270600499		
法人名	社会福祉法人五島会		
事業所名	グループホーム五島		
所在地	五島市大荒町1210		
自己評価作成日	令和7年6月1日	評価結果市町村受理日	令和7年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和　7 年　7 月　15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「自宅で生活していた頃」と同じように生活できることを目標に支援している。その中で、洗濯物たたみ、干し、料理など出来ることに参加していただいている。また、レクリエーションや運動を多くして体を動かすことを増やしている。特に天気の良い日は、「外出すること」で歩くことに心がけ、自分たちで野菜を育てる楽しみを持ち続けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所では、利用者の得意分野を引出す支援に努めている。職員は荒れ地を耕し野菜を育て、収穫から調理を通して、利用者の喜びに変え、利用者製作の折り鶴を無駄にせず職員と利用者で大きな飾り絵を作成している。また、夜間に教会のイルミネーションを見に出かける等、職員の豊富なアイデアや判断力は宝に値する。排泄支援では失敗をもいとわず、パッドを無くし布の下着にする等、利用者の尊厳と快適さに配慮して支援している。利用者は、想いを職員に聞いて貰えることで落ち着きを取り戻している。介護計画は、一人ひとりの個性を尊重し、QOLの向上に繋げている。身体拘束廃止委員会では、職員が交替で講師となり共に高みを目指していることがわかる。理念である、目配り、気配り、心配りは、利用者のみならず、職員にも当てはまることであり、チームワークの良さを活かした利用者の笑顔が見られる事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

グループホーム五島

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時　唱和しており　事務所やリビング室にも掲示することで　いつでも確認ができるようにしている。その人らしく生活していただけるようにミーティングでその方のやりたい事出来る事を話し合いケアの統一を図っている	理念を基に、介護目標　“その人の得意分野を引出しながら、楽しみを持って生き生きした生活ができる”を策定している。職員は、利用者の好きな事、得意な事を見出しながら、体を動かす機会を多く取り入れ、楽しく生活できるよう支援している。職員会議でも、理念の振り返りがあり、職員で共有して具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域活動の空き缶拾いゴミ拾いに参加している。小学生との交流では　栗ひろいや餅つきの時、肩揉みや話をする時間が設けられており楽しみにしている。	毎年、法人施設で行われる芋掘り、栗拾い、餅つき大会での小学生との触れ合いや、地域行事のチャンココ祭りを、利用者は楽しんでいる。町内の空き缶集めやゴミ拾い、周辺の清掃等、地域活動に職員が参加しており、散歩時に地域住民から、利用者の名前で声を掛けられたり、桃が届く等、事業所と地域の良好な関係が確認できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生との触れ合いや道路近くに畑を作ったことで地域の人達に話しかける機会も増え楽しそうに作業をしていることで　認知症でも悲しいばかりではないとの理解につながっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施　事業実績　事業計画を報告している　そこでいただいた意見で運動もいいが、頭や手を使うこともいいと言われ手先を使った活動を増やす等サービス向上に活かしている。参加出来ない家族には施設便りで報告を行っている。	2ヶ月毎に対面での会議を開催し、1回は、改修工事の為、隣接法人施設と合同で行っている。事業実績や勉強会・研修報告を行う他、参加者から観光スポットやイベント情報を得て反映させる等、有益な意見交換の場となっている。参加のない家族へは、事業所便りに記載すると共に面会時に会議内容を伝え、意見を聴取している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、事業実績や事業計画を報告意見などをいただいている。	介護保険更新等、書類提出は、事業所が市担当窓口で行い、事故報告等があれば法人と情報共有の後、ケアマネジャーが市担当窓口へ提出している。運営に関し不明点は、法人支援相談員を交え、市担当課と情報共有している。マイナンバーカード申請は、家族へ連絡する等、行政とは協力関係を築くよう取組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束について職員担当月を決めて研修を行っている。聞くだけでなく調べる等自分自身で考えて学んでいる。玄関の施錠は、夜間帯のみで日中は施錠しておらず天気の良い日は外に出る機会をつくっている	事業所の2ヶ月毎の身体拘束適正化委員会では、利用者の現状を把握し、対策を検討している。更に毎月の本廃止委員会では、職員が交替で講師となり、利用者個々の支援の在り方やスピーチロック等、検討している。年2回の母体法人の身体拘束研修に全職員が参加しており、法人をあげ、拘束のない支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に一度　職員担当月を決めて研修を行っている。 それとは別に老健での研修にも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料を玄関に置いておりすぐに見直し　学べるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、入所時に法人の支援相談員とGHケアマネジャーが説明を行っており、改定があった時にもその都度　文書を送り説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており　面会や電話　ケアプラン作成時意見　要望を伺っている。利用者様には、普段より意見を言いやすい関係づくりを行い　表情が暗い時には居室で話を伺うなど話しやすいようにしている。	入居説明時、本人や家族の相談や苦情を受け付ける体制や意見箱の説明を行っている。事業所便りや電話、面会など、利用者の様子を家族と共有しながら要望や意見の収集に努めている。年1回、家族を集め食堂で活動報告会を実施し、家族が話しやすい環境を整えている。利用者の日常会話から得た声も、支援の質向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議では業務内容について意見を出していただき改善につなげている。	職員は、職員会議や申し送りに限らず、日々の業務で意見やアイデアを出し合い業務内容を検討している。施設長は主任者会議で管理者と情報共有を行い、職員面談を通じて現場の状況や意見を把握し、運営に反映している。職員の意見は、記録方法の見直しや物品購入、シフト調整などに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の聞き取り　業務内容の見直しを行ったことで　負担の軽減につながり働きやすい環境づくりができている。また　資格手当・実務手当がついており　年に1回の昇給がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より介護プロフェッショナルキャリア段位制度を用いて技術力のアップに取り組んで行けるようにしている。法人内での研修が毎月あることでスキルアップにつなげられている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老健での研修では他の職種の人達と一緒のグループで色々な意見を聞く機会もありサービスにつながる情報を得られるようになった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の会話　表情より要望を汲みとり、居室等　話しやすい環境で伺う　普段より関わりを多く持つことで話しやすい関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より意見・要望を伺い　利用者様の状態や様子を面会時や電話で報告することで話しやすい関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族に、何に困っているのか伺い、言うことができない時には、動作や表情等より、汲みとりサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中でご本人が出来ることは、洗濯物たたみ　干し　調理　野菜作り等進んで参加していただいており、わからないことを職員が尋ねる等お互いに支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会　毎月の請求書送付時、近況を報告している。ご利用者様がご家族に会いたいと希望がある時には連絡をし　会いに来ていただくことでより良い関係づくりにつなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過の為、馴染みの人に会いに行くことは出来てないが、少人数で面会に来られた時には会っていただいている。ドライブ等で馴染みの場所に行けるようにしており、畑作りを通じて自宅で生活していた時と同じような楽しみを持っていただいている。	本人や家族から収集した情報は、生活歴として整理し、記録している。玄関での面会であり、家族や友人などの交流の機会を確保している。ふるさと散策のドライブでは、馴染みの場所を巡っている。釣り好きの利用者に、海釣りを目指した日々の訓練を実施するなど、個々の馴染みを重視した支援に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良いご利用者様の席を近くにする。また会話が少ないご利用者様には気が合いそうな人の側に座っていただき 職員が間に入り話をする事で会話が増えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は 家族・医療機関と連携を取りながら、ご利用者様の身体状況に応じた入居施設への支援を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望を伺いながら把握に努めているが、希望や意向を伝えることが難しい時は、普段の生活の中での言葉や表情を介護記録に残すことで希望や意向を汲みとっている。	職員は居室でゆっくりと話を聞き、表情やしぐさから思いを汲み取るよう努めている。絵馬や七夕短冊を活用するなど、さりげない意向把握の工夫がある。言いたくても話せない様子を汲み、職員は本人本位で検討し、席替えを行った事例もある。知り得た情報は、介護記録に記し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りやサマリーから掴み、ご本人との会話の中からの情報や、生活している中で楽しくしていることを記録に残すことで把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の日課はほぼ決まっており、バイタル測定や身体状態・体調の変化など観察や確認を行なうことで日々の状態把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態観察や月１回のカンファレンス・モニタリング時、職員の情報を元に家族に連絡後、計画に反映している。状態変化時は家族に連絡し了解を得ている。	介護計画は、職員の日々の気づき、毎月全職員で行うモニタリング、カンファレンスにて評価、課題抽出し、ケアマネジャーが作成している。記録は詳細であり、排泄状況の改善や得意分野の継続等、QOLの向上に繋がる目標設定であることが確認できる。家族の意見は電話にて聞き取り、意向を反映し同意を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態観察やケア時の変化など記録に残し、朝のミーティングで情報を共有。月１回のカンファレンスやモニタリングの活用で、計画に反映している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズを導き出すために、日々の会話や状態観察を記録に残し、その時にあったケアの方向性を職員間で検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外に出かける機会を多く作ることで　地域の方より話かけられる事が増え　育てる作物を褒められることで　意欲を持ち楽しみのある生活ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時家族と話し合い　かかりつけ医を決定している。定期受診に加え、病状に応じて受診している。	協力医や協力歯科医は、ケアマネジャーが受診支援を行い、検査時は、家族も主治医から説明を受けている。他内科医や他科は、家族が受診支援し受診結果は都度、報告がある。病状は“病院受診ノート”にて職員共有している。毎週訪問の医療連携看護師は、利用者の体調管理他、職員の相談を受け、主治医と連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週１回医療連携看護師より　状態を見ていただいている。職員では判断がつきにくい時には連絡相談を行い。受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には病院関係者へサマリーを提供　状態に変化がある時にはその都度連絡相談する関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の説明を行い同意を得ている。また　普段より　ご利用者様の状態報告は行っており　変化時はその都度話し合いを行い、説明をしている。	契約時に、重度化した場合における(看取り)指針を説明し家族に同意書を得ている。病状変化時は主治医から家族へ説明がある。事業所は看取り支援を行うとしているものの、家族は法人内他施設や医療機関への希望が多く、近年は、看取りの事例はない。また、移行の際の事前の本人・家族の意向確認の記録がない。	契約時の同意書のみならず、看取り期の意向確認は、本人・家族が穏やかに最期を迎える為に必要と思われる。記録として残すことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議時　応急手当、誤嚥　発熱に対して対応について実践を交え研修を行っている。またマニュアルはすぐに見返すことができるようにしており　誤嚥の対応については　食堂に貼りつけている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	夜間　日中想定での防火避難訓練や災害での避難訓練を年2回行っている。 非常通報装置の連絡網に近所の方も入っており協力体制が出来ている。敷地内禁煙にすることで火の不始末も未然に防いでいる。	年2回、消防署や防災設備会社立会いの昼夜間想定火災総合訓練と自然災害訓練があり、利用者も防災頭巾を被り、訓練している。地域住民を緊急連絡網に加え、管理者が訪問して災害マニュアルの説明を行っている。備蓄品や個人情報の緊急持出を整備している。ただし、反省点を次の訓練へ活かす為の自主訓練実施がない。	反省点を踏まえ自主訓練の回数を増やすことで、職員の防災意識を高め、落ち着いて、利用者、職員の身を守るための、より実践的な訓練実施に期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの研修や権利擁護の外部研修に参加　居室に入る時には声かけを行うことの徹底　浴室では、前をタオルで隠す　排泄の声かけ側で小声で行い排泄中はドアの外で待機する対応をしている。	職員は理念に基づき利用者の尊厳を大切にし、日々の支援に努めている。接遇やプライバシーに関する研修を実施し、羞恥心や権利への配慮を徹底している。職員間の申し送りでも個人名を控えるなど、プライバシーに配慮して情報共有を行っている。個人情報は所定の場所に保管し、写真使用等の同意書も整備している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の洋服を選んでもらったり　本人の希望を伺いながら　天気の良い日は外庭の散歩を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は、決まっているがその方の希望に合わせて居室で過ごされたり　入浴をしたくない時は　時間や日程をずらして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水などを準備することで　ご自身で顔につけることができる。櫛を持ち鏡を見ながら髪をとかすことができている。着たい服を自分で選んでいただくことで　おしゃれに興味を持てる様に支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき　カット　味付け　盛り付け　下膳　茶碗洗い　お椀拭き　台拭き　それぞれ得意分野をご利用者様が進んで手伝って下さる。	職員は、利用者の嗜好に合わせ、旬の食材を使った調理を行っている。それぞれの咀嚼に合わせ、食べやすいよう工夫している。利用者も一緒に調理をするなど、準備段階から楽しめるよう支援している。季節行事の特別メニューや利用者の誕生日に合わせたリクエストメニューなど食事を楽しむ時間を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録摂取量を把握している。食事が食べれない時には　好きな物を提供する。 また嚥下機能の低下が見られる時には　トロミやお粥　一口大ににするなど形状にも気を配っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時そばで見守り 声かけを行ったり出来ない時には支援を行なう。また食事の状態を観察する事で義歯の不具合の発見につながっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用しパット内で排泄おさまっている時には、リハビリパンツから布パンツにパットを使用、 時間を決めて誘導する事で失敗がない時はパットを外し削減につながっている。排便の状態を把握することで過度な下剤の使用を避け失敗も殆ど見られていない。	日中はトイレを、夜間はポータブルトイレを使用し、座位による排泄を支援している。職員は排泄チェック表で介助状況を把握し、朝の申し送りなどで新しい情報を共有している。パッド使用の頻度を少しでも減らすことを目指し、声掛けや誘導、排泄時間の調整、こまめな目配りなどを行い、利用者の排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を増やし歩行や運動時間を作っている。また腹部マッサージを取り入れたり温めるなど対応している それでも出ない時にはその人に合わせたセンナ茶の量を飲んでいただくこと等で排便コントロールできている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日課として時間帯は決まっているが、ご本人の希望で時間をずらしたり曜日を変更する等対応をしている。	日曜日以外入浴準備を行い、週3日を目安に声をかけている。拒否がある場合は無理強いせず、時間や声掛けを変えて対応している。入浴しない日は清拭を行い、補助具や2人体制、シャワー浴や足湯など安心して入れるよう工夫している。柚子湯や入浴中の会話など、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、ご本人の希望や居眠りをしている時には居室に誘導して休んで頂くようにしている。またゆっくり休んで頂けるように日中の活動量を増し外に出かけ日光に当たることで体内時計を正すようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後薬の変更があった場合は 介護記録や申し送りノートに記録 朝のミーティングで申し送り周知している。服用量は 食堂の席の前に数を書くことで確認することができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ 干し 野菜の皮むき カット味付け 盛り付け 茶碗洗い等役割を持ち生活をしていただいている。畑を作ることで野菜の成長を楽しみに出かける等 気分転換にもつなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外を散歩するのが気持ちいい　畑を見に行きたいとの希望が聞かれるので天気が良い日は、外へ出かけることが多い。人が多い所には行けていないが、花や海など見に出かけている。	職員は天候や体調に配慮しながら、周辺の散歩や菜園での畑作業、収穫を行っている。季節ごとの花見やこいのぼり観賞など、外出機会を設けている。今年は、イルミネーション観賞に夜の外出を楽しんでいる。外出先でおやつを食べる等、戸外の楽しみを感じることができるよう職員が意見を出し合いながら支援に反映している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ過の為外部の人が多い店には出かけていないが、事務所で預かっているお金があり、購入したい物は、職員が代わりに購入したり　家族に連絡して購入していただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様が、連絡をしたいと希望があれば家族に連絡したり　家族より連絡があった時には、取次をしている。 年賀状が届いた時には、ご本人に年賀状を書いていただき出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西日が強くなる前に遮光ネットを取り付けることで日差しを防ぎ　温湿度計を各居室に取り付け　エアコンなどを利用して心地よく過ごせる温度に調整している。また　季節感がある展示を行っている。	玄関に生けた庭の花や壁面の利用者と職員合作の飾り物で、季節を体感できる。風呂、洗面台の表示をわかりやすく替え、日差しは、遮光ネットや簾で調節している。利用者のほとんどがリビングで過ごし、笑い声が聞こえる等、和やかな雰囲気である。職員による、日に3回の手摺消毒や毎日の清掃で快適な環境となるよう整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の関係を普段より観察し気の合いそうなご利用者様同士を隣りの席に座っていただいたり　一人でゆっくり座りたい方には　一人で過ごしていただける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族からの写真やプレゼントを飾ったり　ご本人が使いやすい家具の配置にする等工夫をしている。	持込みに制限はなく、馴染みの収納ケースや箪笥、椅子やテレビ等、本人と家族で使い勝手のいいように配置している。家族写真を飾り、寂しくないよう家族との絆を大切にする他、馴染みの神父の訪問もある。職員は、清掃や温度管理を行い、利用者が、自宅と同じように快適で安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレでは、伝わりにくいご利用者様のために便所や方言を用いてわかりやすくしている。一人で出来る事を観察　情報を共有し見守りだけを行ない　ご本人の出来る事を奪わず自立した生活が送れるようにしている。		